

## Hatchinson 先生による Whole Person Careワークショップ



6月22日(日)千里ライフサイエンスセンター、サイエンスホール(豊中市)にて Whole Person Care の第一人者である McGill 大学の Dr. Tom A. Hutchinson 教授を講師に迎え WPC ワークショップが開催されました。

Hatchinson 先生は昨年のホスピス財団主催「特別講演会」に続き、2度目の来日で、

今回は日本緩和医療学会学術大会の海外招待演者として招聘されたのを機に、ホスピス財団がワークショップを企画しました。当日は、医師、看護師をはじめ、臨床心理士や僧侶など多彩な職種から47名が参加され、ロールプレイを随所に交えながら実践的なワークショップが行われました。

### 参加者の声

○相手を丸ごと受容するということを、コミュニケーションのあり方を通して学ぶことができ、大変、参考になりました。

○Self Care について今までは相手しか見ていなかったのが、180度回転して自分を見、自分を認識することで、余裕ができて、相手をもっとよく見えてくるように感じました。

### Whole Person Care ワークショップに参加して

淀川キリスト教病院 研修医 佐々木満ちる



「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」(聖書)

この言葉を裏返すなら、「自分を大切にできない限り、人を大切にすることはできない。」ということだと思います。

私が、ハッチンソン先生のワークショップを通して知ったことは、まさにこのことでした。

私は4月から研修医として働き始めました。入社した当初、私は全人医療を目指していました。しかし現実には、初めての業務、患者や同僚とのゼロからの人間関係、医療者という未体験の重い責任の中で、いつしか私の心は疲弊していました。それでも、また次の日がやって来る。私は言葉にならない不安の中で、自分を見失いそうになっていたのかもしれない。

そんな時、私はハッチンソン先生のワークショップに参加しました。先生は優しい声で私たちをリードし、見失いそうになっていた「自分」に焦点を当てさせて下さいました。私は改めて自分を見つめ直しました。そして、疲れ切った自分を否定することなく、無理に肯定することもなく、ただそのまま受け止めたいと思いました。正直、これは簡単なようでとっても難しい気がします。でも、「自分を大切にしたい」と思う心が芽生えたことこそ、このワークショップに参加した大きな収穫だと思っています。

"Whole person care" そのヒントはどこか遠くにあるのではなく、漠然としたものでもなく、「自分」という最も身近な存在を大切にすることにあるのだと、ハッチンソン先生は教えて下さいました。

# 2014年度 ホスピス・緩和ケアボランティア研修会



本年度は、7月に神戸、9月に松山と、2回の開催となりました。

地方開催は、現地ボランティアの皆様の協力が必須ですが、今回は愛媛大学病院ボランティアいきいき会の多大な協力を戴きました。概要は下記の通りです。なお、両日の講演内容は、「開催報告書」としてまとめられ、ホスピス財団ホームページでも公開予定です。



講演をされる中橋先生

## 神戸会場

7月3日(木) 三宮研修センター

・講演

1. **緩和ケアの本質**… 全人的ケア、死から生といのちを考える  
高宮 有介 氏 (昭和大学 医学部医学教育推進室)
2. **寄り添う心**… スピリチュアルケアの視点から  
大河内 大博 氏 (上智大学グリーンケア研究所)

・参加者 224名

## ホスピス・緩和ケアボランティア 研修会に参加して

日本病院ボランティア協会 理事 宇野喜代子



皆さまの期待度を見るかのように会場は満席。

高宮先生は「緩和ケアの本質」をユーモアを交えながら、全人的痛み、特に「スピリチュアルペイン」の視点を語って下さいました。また何かをすることに価値を置きがちなボランティア活動に対して「Not doing, but being 何かをすることではなく、側にいること」両方のバランスが重要であることを示し、最後にキング牧師の演説を、「私の夢」として参加者に贈って下さいました。

“I have a dream” 癌の痛みで苦しむ患者さんの苦しみや心やスピリチュアルな面にも救いがありますように。皆さんが死から生・命を考える機会になり、ボランティアとして患者さんと深い信頼関係を築き、自分自身や生まれて来た意味や役割に気付き、感じる事が出来ますように。

大河内先生は「寄り添う心」を僧侶(宗教者)の立場から語って下さいました。

「寄り添う」=「縁りそう」。仏教者として縁を大切に、何かを対話するだけでなく、相手と時間を共有する。そのために「ひま」であることが重要であり、話したい時(必要な時)そこにいる、縁り添う存在でありたい。

両講先生の講演から「ホスピス・緩和ケアの現場で魂を扱う宗教(宗教家)の果たす役割がこれから重要になるのではないか」と感じた研修会でした。

## 松山会場

9月4日(木) 愛媛大学医学部

・講演

1. **生活を途切れさせないために… 緩和ケアとエンパワメント**  
榎本 真幸 氏  
(愛媛大学医学部附属病院総合診療サポートセンター長)
2. **病院ボランティアの役割とは… ボランティアがいる病院の風景**  
中橋 恒 氏 (松山ベテル病院 院長・ホスピス病棟医長)

・参加者 78名

## 熱気を感じて

(愛媛大学での研修会)

日本病院ボランティア協会 理事 高辻 慧子



四国は「ホスピタリティー」の土地で、昔からお遍路さんの「おせったい」の心が根付いていたのを、改めて気づかされました。

前日、愛媛大学附属病院・四国がんセンター・松山ベテル病院に挨拶を兼ねて見学をさせて頂きました。それぞれの病院ボランティアの方々の穏やかでイキイキと活動しておられる姿に、熱気と心意気を感じました。

研修会では愛媛大附属病院ボランティアのお手伝いを頂き、講演Ⅰ「生活を途切れさせないために～緩和ケアとエンパワメント」愛媛大学附属病院総合診療サポートセンター・センター長榎本真幸氏の講演は、これからの日本の医療体制・高齢多死社会に向けての具体的な提案でした。共助(互助)の再構築の意識と地域包括支援体制を整え、医療者と患者・家族・住民の意識の転換の必要性、多職種連携の医療チーム作りと、生活を重視した地域医療ケアの推進に取り組み生活を途切れさせない大切さを語られました。

講演Ⅱ「病院ボランティアの役割とは～ボランティアがいる病院の風景」を松山ベテル病院・院長中橋恒氏が呼吸器外科医から50歳で緩和ケア医に転身された経緯から話し始められました。そして病院に求められる医療技術偏重のあまり、患者の「没個人」と言う状況を作り出しており、現状を克服する一方法として広い意味の緩和ケアの考え方の導入があると話されました。病院の持つべき付加価値として、ホスピタリティー溢れるボランティアの存在について、写真を交えた具体的なお話でした。病院ボランティアは生活を支える役割の一端を担う事を改めて認識した研修会でした。

## お知らせコーナー

ソーシャルワーカーのスキルアップを  
目指す実践セミナー

- ◎ 2014年10月12日(日) 10:00 ~ 17:00  
(9:30 より受付)
- ◎ 会場 メルパルク 京都 4階 研修室
- ◎ 講演 細川 豊史氏 (京都府立医科大学大学院教授)
- ◎ 詳細はホームページをご覧ください。

## ホスピス・緩和ケアフォーラム in 甲府

- ◎ 2014年11月30日(日) 13:00~16:30  
(12:30 開場)
- ◎ 会場 甲府富士屋ホテル
- ◎ 特別講演 “これからの「医療」は「介護」と「福祉」とともに”  
講師：伊藤 真美氏 (花の谷クリニック院長)
- ◎ 参加費無料
- ◎ 詳細はホームページをご覧ください。

## 2015年度事業助成の受付を行っています

本年度より助成の対象が拡大されました

- ・ 対象者：助成課題に意欲的に取り組んでいる  
医療従事者の個人あるいは団体
- ・ 助成金額：1件あたり50～150万円(数件)
- ・ 締切：11月30日
- ・ 詳細はホームページをご覧ください。

## メルマガ『今月のお便り』好評配信中！

配信ご希望の方は、ホームページよりお申し込みください。

「ホスピス・緩和ケアフォーラム 2015」  
協力医療機関 募集のご案内

「ホスピス・緩和ケアフォーラム」は、医療従事者、市民の方々にホスピス・緩和ケアへのご理解を深めて戴く目的で、本財団が主催し、毎年全国各地で開催しております。2015年度ホスピス・緩和ケアフォーラム開催の協力医療機関を下記の要領で募集いたします。

- ・ 実施時期：2015年4月～2016年1月
- ・ プログラム：会場の選定、講師の選択等の具体的プログラムは、当財団と相談のうえ決定します。
- ・ 助成金額：100万円(講師謝金、旅費交通費、会場賃借料、印刷費等すべての経費を含む)
- ・ 募集期限：2015年1月19日(月) 必着
- ・ 詳細はホームページをご覧ください。

## ホスピス財団の新パンフレットが完成しました。

一般の方にも分かりやすいパンフレット『私たちはホスピス財団です』を作成いたしました。

ご希望の方には無料で送付いたしますので、ホスピス財団へ送付先、必要部数を明記してE-MAILにてお申し込みください。ホームページにも掲載しております。

こんにちは  
ホスピス慈山会医学研究所付属  
坪井病院ホスピス

相談支援センター MSW 塩田 剛士

当院は、昭和52年に当時大都市偏重だったがん治療に対し、民間母体では極めて珍しいがん専門病院として開設しました。東北新幹線で東上すると、郡山駅を出て間もなく右手の高台に見える白い建物が当院で、後述するホスピス病棟から眺められる安達太良山や磐梯山などは、四季の変化を感じられる身近な絶景ポイントです。

当院のホスピスは、外来患者さんの「末期になっても家に居たい」との言葉をきっかけに、在宅ホスピスとしてスタートし、

それらの方の後方支援ベッドとして、平成2年に東北初の緩和ケア病棟を開設しました。今日までその流れを汲んで在宅ホスピスと入院ホスピスを行ってきましたが、本年8月に郡山駅前の坪井診療所が『ケアステーションあすなろ』として生まれ変わり、訪問



ボランティアさん製作の  
折り紙「水族館」

看護部門が独立する形となりました。

ケアステーションの開設は当院ホスピスにおける大きな転換事ですが“今、目の前で何らかの苦しみを抱えている方に手を差し伸べる”との



節分

ホスピスマインドは揺らぐことはありません。患者さんやご家族が、人生の終末を安心して過ごして頂けるように、お手伝いさせていただきます。

私MSWは相談支援センターに所属しており、患者さんやご家族の気持ちに寄り添い続けることとホスピスマインドを支援の根底に据え、医療相談(ホスピス緩和ケアに関する相談が主で当院患者さんでない方も対象)や退院支援、単身患者さんへの日常生活支援等を行なっています。地域の方々が『望む場所で・その人らしい生活』を送ることができるようお手伝いさせて頂きたいと思っています。

(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団  
2014年度事業進捗状況報告  
(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (公募)  
…… 1件 進行中
  2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業  
…… 第3次調査・3年目 進行中
  3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2015』(研究論文集+データブック)  
作成・刊行事業 …… 進行中
  4. 緩和ケアにおける治療介入の効果・安全性に関する多施設  
データベース研究 …… 2年目 進行中
  5. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査 …… 進行中
  6. ソーシャルワーカーのスキルアップのための実践セミナー開催事業  
…… 予定日 10月12日(日) 於:メルパルク京都
  7. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業  
実施:第1回 7月3日(木) 於:三宮研修センター  
参加者:224名  
実施:第2回 9月4日(木) 於:愛媛大学医学部  
参加者:78名
  8. Whole Person Care ワークショップ開催事業  
実施:第5回 8月9日(土)  
於:千里ライフサイエンスセンター 参加者:13名  
実施:第6回 8月23日(土)  
於:TPK札幌ビジネスセンター 参加者:13名
  9. グリーフケア研修セミナー開催事業  
…… 予定日:2015年1月17日(土) 場所:関西学院大学梅田キャンパス
  10. Hutchinson 先生によるワークショップ開催事業  
実施:6月22日(日)  
於:千里ライフサイエンスセンター 参加者:47名
  11. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業  
…… 予定日:2014年11月30日(日) 場所:甲府富士屋ホテル
  12. 『これからのとき』の冊子増刷
  13. 一般広報活動事業 …… 『ホスピス財団ニュース』の発行等
  14. 日本・韓国・台湾の緩和ケア医の終末期医療に対する態度に  
関する比較文化研究 …… 進行中
  15. APHN 関連事業費 …… 進行中
  16. 日本・韓国・台湾共同研究事業の会議費 …… 進行中
- 以上

(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団  
2013年度(第14期)決算の概要

2013年4月1日から2014年3月31日まで (単位:千円)

科 目	2013年度決算
<b>【経常収益】</b>	
①基本財産運用益	7,172
②受取寄付金	33,454
(内訳) 賛助会費収入	25,890
一般寄付金収入	7,564
③雑収益等	1,602
<b>経常収益計 (A)</b>	<b>42,228</b>
<b>【経常費用】</b>	
①事業運営費	31,795
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	9,921
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	12,315
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	6,856
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	2,703
②一般管理費	6,074
<b>経常費用計 (B)</b>	<b>37,869</b>
<b>当期経常増減額 (A - B)</b>	<b>4,359</b>

今期は運用益増と大口の寄附があり、3年ぶりに単年度黒字決算となりました。

近刊紹介



「病から詩が生まれる」  
看取り医がみた幸せと悲哀  
大井 玄 著

(2014年4月刊 朝日選書 1300円+税)

不思議に心に響く本である。臨床医として長年終末期医療に関わる著者が、認知症や老年期、そして人生の最期を見つめつつ、そこに詩を交えることで独特の詩情を醸し出している。

人間の老・病・死という暗さと悲愴感が漂う情景も、詩が主役となることで、読むものに共感と、さらには受容をも与えているように思われる。著者の眼力と詩が相俟って上梓された好著である。

“おいほめ 飲み明かそうぜ 秋の酒” 江國 滋 (本書より)

寄付者一覧 (2014年3月~8月 順不同、敬称略)

(個人) 地藏寺 服部 宏昭

更家 綾子 加藤 謙太 匿名 2名

(団体) 宗教法人 持宝寺

新規賛助会員 (2014年3月~8月 順不同、敬称略)

(個人) 竹田 長英 榎原 良行 大坂 巖

吉岡 恵子 高橋 孝郎 柳 亜希子

山崎 圭一 和田 敦子

(団体) 社会福祉法人 池田さつき会

岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐北厚生病院

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

また、「遺贈」による寄附もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄附、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは06-6375-7255です。

編集後記

久しぶりに映画を見る機会が与えられた。上映作品は『二つ目の窓』、今年のカンヌ映画祭で絶賛された河瀬直美監督の力作である。舞台は奄美大島。簡単な表現をすれば、二つの家族が織りなす人間ドラマということになるが、中々奥深い作品であった。その一家族、末期がんで高校生の娘を持つ母親が、余命幾ばくもない状態で病院から自宅へ帰還する。

家族、親しい村民が家に集まり見守る中、彼女が奄美民謡を歌って欲しいとかすかに口を開く。三線に合わせて一人が歌い、やがてそれが全員の手拍子と踊りの合唱と変わり、彼女は安らかに息を引き取る。…こんな感動的な看取りもあるのかと、驚かされた。自宅だからこそ出来る、看取りの醍醐味というべきか。

\*『二つ目の窓』 公式HP

<http://www.futatsume-no-mado.com/>

